

県全域の環境騒音レベル別推定居住人口

Leq（昼間値）dB(A)	53 年 度		65 年 度	
	人口（万人）	構成比(%)	人口（万人）	構成比(%)
55以上60未満	62.5	31.3	75.9	29.7
60以上65未満	83.9	42.1	107.4	42.0
65以上70未満	48.9	24.5	64.8	25.3
70以上	4.1	2.1	7.8	3.0
計	199.4	100.0	255.9	100.0

なお、別に添付している「環境騒音予測分布図」はひとつの予測結果を示したものであり、昭和65年度において容認される姿を示したのではなく、また、本計画により今後行われる環境管理の結果を示したものではない。

第3節 環 境 容 量

1. 環境保全水準の設定

環境騒音に係る環境保全水準は騒音に係る環境上の条件について生活環境を保全し、人の健康の保護に資するうえで、維持されることが望ましい基準として定められている騒音についての環境基準値を基礎としながら、かつ住民の意識調査の結果も踏まえ、設定するものである。

この場合評価単位としては

- ① 面的な広がりを持つ地域の騒音レベルを代表的に評価できること。
- ② 複合騒音について一括して評価できること。
- ③ 騒音の時間的、空間的な変動に対するは握ができること。

などの効果を有するLeqを基礎とし、さらに夜間における静穏の保持に配慮して昼夜等価騒音レベル（以下「Ldn」という。）を用いることとした。

本計画における環境騒音に係る環境保全水準は、①療養施設などが集合して設置される地域など特に静穏を要する地域（A地域）については50dB以下、②主として住居の用に供される地域（A地域）については55dB以下、③相当数の住居と併せて商業、工業などの用に供される地域（B地域）については65dB以下、④また、これらの地域以外の地域（C地域）については、